

パフォーマンステスト「町の道案内」(第8時)

測る力	話すこと [やり取り] : 地図を見ながら目的地までの行き方を案内し、質問に応じられるか (知識・技能 / 思考・判断・表現)
形式・時間	先生と1対1で約1分×全員。教室前方のテスト席で (待機イス1つ・机に町マップを1枚置きっぱなしにする)。先生が Where is the ...? と聞き、子どもが案内する。
ことばの条件	黒板の「道案内の型」 (Go straight. / Turn right [left]. / Stop! / You can see it on your left.) は掲示したままでよい。地図の番号 (1~9) はたしかめ (Number 6?) に使ってよい——案内は道案内のことばで行う。

35人を回す テスト中、ほかの子は何をしているか (これが崩壊しない鍵)

グループ	やること	用意する物
A (テスト中の班)	順に呼ばれてテスト席へ。呼ばれる前と終わったあとは、席でBと同じことをする	— (手ぶらでOK)
B	町マップでペア道案内・延長戦 (小声で)	活動シート2
C	町ことばチェーンの班戦 (小声で・記録に挑戦)	活動シート1・絵カード
D	振り返りカードの「単元のまとめ」を書く (書けたら席でBと同じことをする)	振り返りカード (学校のもの)

1班終わるごと (9~10分) に役割がA→B→C→D→Aと1つずれる (テストを終えた班がBへ、Dの班が次のテスト班へ)。1班8~9人・約1分×35人で35~40分。呼ぶ順は名簿順でなく班ごと (待機イスに座るのは呼ばれる直前の1人だけ)。終わった子は、聞かれたことを話さない——後の子が思い出しテストになる。テスト用マップは机に置きっぱなしにして、子どもは手ぶらで来る (配り直しの時間をゼロにするのがコツ)。



先生の質問カードと、評価しないこと

先生の質問カード この順に聞く（子どもによって2～3問でよい）

1 Hello! How are you?

（あいさつ・緊張ほぐし）

2 (STARTを指さして) Where is the zoo?

（Go straight. → Turn right. の2手で着く。library と museum は曲がらずに着くので使わない。班ごとに hospital・post office にも替える）

3 (先生が指でたどりながら) Here? ... Oh, thank you!

（先生の指を見て Stop! や言い直しができるかが見どころ）

4 What do you have around our school? What's your favorite place?

（学校のまわりのものを We have で1つ言えるか。1つで十分）

5 Nice! Thank you. See you!

（お別れまでがテスト）

評価しないこと right と left の言いまちがいは減点しない（言い直せたらむしろ◎）。発音の正確さ・a や the・声の大きさも評価しない。町にある施設の数やにぎやかさは評価と無関係——学校のまわりの場所を1つ堂々と伝えられたら、それが満点。

ルーブリック（3観点）と記録シート

観点	a（十分満足）	b（おおむね満足）	c（支援が必要）→その場でする支援
知識・技能	Go straight. / Turn right [left]. / You can see it on your left. を道すじに合わせて選び、相手の指を目的地まで動かして案内できる	支えの質問を受けながら、Go straight. と Turn right [left]. で行き方を伝えられる	矢印カードを指しながら単語（straight! / right!）で伝えられる→矢印カードと一緒に指さして1文だけ言い直す
思考・判断・表現	相手の指の動きを見ながら Stop! や言い直し（No, turn left!）を入れて案内を調整し、ずれても立て直して目的地まで送りどけられる	地図の道すじに合う語句を選んで案内できる	道すじとことばがずれる→先生が指をSTARTに戻し、ゆっくり1手ずつ聞く
主体的に学習に取り組む態度（単元全体で）	相手に伝わる案内の道すじを前もって考えて準備し、活動でも Stop! や聞き返し、自分からの質問を使ってやり取りを続けようとしていた	活動に参加し、振り返りに手ごたえが書かれている	→振り返りの視点を一緒に選ぶ（「だれの案内がわかりやすかった？」から）

迷ったらb。cは「できない子」ではなく「次の一手がわかる子」として記録する。

記録シート 名簿順に○を1つ（テスト中はこれ以上書かない）

番号	名前	知技	思判表	メモ（1語だけ）
1		a b c	a b c	
2		a b c	a b c	
3		a b c	a b c	
4		a b c	a b c	
5		a b c	a b c	
6		a b c	a b c	
7		a b c	a b c	
8		a b c	a b c	
9		a b c	a b c	
10		a b c	a b c	
11		a b c	a b c	
12		a b c	a b c	

この用紙は12行。名簿の人数ぶん印刷して使う（3枚で36人）。態度（主体性）はテスト当日でなく、単元全体の振り返りカードと帯の様子で見る。

この単元の所見文例（通知表・指導要録に）

テストと振り返りカードの記録から、そのまま使える形で、名前・活動名を入れ替えて使ってください。

【知技・a】外国語「Let's go to the zoo.」の単元では、Go straight. や Turn right. などの表現を正しく使い、地図の目的地まで相手を案内することができました。

【知技・b】町ことばチェーンでくり返し声に出した施設のことばを、道案内でもそのまま使うことができました。町マップと黒板の型に支えられながら、Where is the ...? — Go straight. のやり取りを組み立てています。

【思判表・a】町マップの道案内では、相手の指の動きを見ながら Stop! と伝えたり言い直したりして、相手に分かるように案内を工夫することができました。

【思判表・b】相手の指がいまどこにあるかに合わせて、Go straight. と Turn right [left]. のどちらを言うかを選び分けました。友だちを目的地まで送りどけるために必要なことばを、自分で判断して伝えています。

【態度】相手の指が止まってしまったときには Sorry! One more time. と言ってやり直し、伝わるまで案内を続けようとしていました。粘り強くやり取りに向かう姿が、ペア練習でも本番でも見られました。

【態度】Small Talkでは学校のまわりにある場所について進んで話し、友だちの紹介にも興味をもって耳を傾けるなど、英語で伝え合う楽しさを味わっています。

【はげまし型】町マップを指でたどる練習を重ね、道すじを目で追いながら英語を出せるようになってきました。黒板のはしの矢印カードで左右を確かめてから話すと、Go straight. Turn right. を最後まで伝え切ることができます。

【接続型】地図の上の位置や行き方を英語でやり取りした経験は、中学校で学ぶ場所や方向を表す表現の土台になります。ことばで人を目的地まで動かせる手ごたえを、この単元でつかめました。

【発展・★3】道案内は目的地に着いても終わりませんでした。Where is the ...? と次の行き先を自分からたずね、案内役と聞き役を交代しながら、やり取りを3～4往復まで伸ばしました。

書き方の型 ①活動名（具体）②できるようになったこと（評価規準のことば）③子どもの姿（1つだけ）の3点で書く。順番は入れ替えてよい——②や③から書き出すと、同じ子に同じ文型が続かない。住んでいる場所や町の規模には所見で触れない（家庭環境・地域差への言及になり得るため。案内の工夫と伝え方の成長だけを書く）。★3は「教科書を超えて届いた子」の記録。この★は成績そのものではありません（評価は先生の観点に沿って行います）。